

国際教養学部一年は英語を二コマ受講する。大学に入って学生が初めて接する英語の授業で、他学部の全学共通科目に相当する側面もある。その一科目イングリッシュ・スタディーズI ABを2008年の学部開設から担当している。試行錯誤も十年近くになる。最初の数年はむずかしい英語をテキストに読解重視で進めた。昨今、ネットやDVDの教材がますます充実したが、読む力の低下は加速化しているとも見える現状のなか、これは価値がある。ところが数年前から海外経験豊かな学生の入学が相次ぎ、2016年度あたりから加速した。入試のからくりも関係していよう。古めかしいかたちを少し改良することにした。辿り着いたのは、生い立ちやアイデンティティに拘る書き手のテキストを読むこと。唐突だが、比喩的な意味まで含め、文法には三つある。外国語を読む上で、高校時代から習う、文法プロパーは欠かせない。それをひととおり終えると、時々『英文法解説』（金子書房）といった本を参照するくらいで、たいていの英文は読める。これを仮りに第一の文法と呼んでおこう。だが、私を含め英語の教員というものは、文法マニアであった経験を持つ人が少なくなく、生涯、文法マニアであり続けたりする人もいる。マニアは対象自体を溺愛するから、時に対象の使い道を忘れてしまう。学部の学生の頃、冠詞が好きだった。aとanとtheの三つ。それだけのことだが、『ニューズウィーク』の記事の冠詞にマーカーで印をつける。今、これを年少者がやっていたら、冠詞もいいが、とりあえず、外の空気を吸ってみたら、草木に目を注いでみたら、と言う。1980年代、文学研究が文化研究に変化し始めた頃、ある大先生が、何を今更という反応をされ、しごく真つ当なことをおっしゃった。文化、文化とそれほど騒がなくても、英語に関しては中島文雄の『英語の常識』（研究社）という名著があるのではないかと。『英語の常識』は事実名著で、第一の文法で片付かぬことを教えてくれた。それは聖書とシェイクスピアに代表される英語のバックグラウンドを教え、これで英語の読みは格段に深まる。古い本だがこの路線を踏襲すれば、新しい類書も見つかる。第二の文法だ。

Miss Brooke had that kind of beauty which seems to be thrown into relief by poor dress. Her hand and wrist were so finely formed that she could wear sleeves not less bare of style than those in which the Blessed Virgin appeared to Italian painters; and her profile as well as her stature and bearing seemed to gain the more dignity from her plain garments, which by the side of provincial fashion gave her the impressiveness of a fine quotation from the Bible,—or from one of our elder poets,—in a paragraph of to-day's newspaper. (ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』第一章)

ヘレニズムとヘブライズムとジャーナリズムが一体化したこの英文を読むには第二の文法が必要。聖母マリアが登場し、イタリアの画家たちが登場する。その自作の有り様を作家はもうひとつメタレヴェルで眺め、地方の新聞に聖書や詩人達の言葉の引用を見いだすと感銘を覚えるという。が、これで英語は読めたと安心できないのが今世紀の状況。80年代以降、英語の常識も肥大化を遂げた。例えばヒンドゥー教に共感するナイポールの英語。シク教徒シンの手になる『デリー』の英語。彼らの英語に第二の文法の痕跡は薄い。しかも第一の文法だけで読めるわけでもない。彼らの作品を読むには、世界についての膨大な知識の集合とでも言い換えるしかない第三の文法が要る。この種の英語の出現により、われわれは第二の文法から自由になった。自由の代償は第三の文法の構築。そこで翻訳を初めて使うことにした。ナイポールの『中心の発見』を教材とし、学生ラウンジの同書翻訳を参照可とした。授業は学生一人英文一パラグラフを担当し、朗読、重要文法事項解説（第一の文法）、重要内容解説（第三の文法）、意味の把握、という四つの作業をする。毎時間全員があたり、アイデンティティ、国家、移民など同時代の問題も議論できるようになった。教養はなぜ必要か？人間は放っておくと、表現は稚拙ながら「野生化」しかねないからだ。第三の文法の学習でそれを回避しよう。